

## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
110012005	生活経済論 Living economy theory	村上 仁美		共通	2	必修	1後期

## 科目の概要

この授業では、DP①③に記載されている社会人基礎力の修得を図り、地域社会に貢献する人材の育成を目指します。具体的には、家計の消費、投資、貯蓄などの経済活動を行う家計とそれを取り巻く経済の仕組みとの関係を扱う生活経済学の基礎を統計データや指標、理論モデルを使って学修します。また、経済学の視点から自らの生活を管理し、より豊かで持続可能な生活を送るための知識やスキルを身につけることを目指します。Google Classroomを使用して授業を行います。(授業時間内・授業時間外ともに、Google Classroomを使用します。)

学修内容	到達目標
① 結婚、出産、教育など、家計が直面する経済的な課題や問題について学修する ② 経済的な課題や問題に直面した際の家計の意思決定プロセスに関する理論モデルを学修する ③ 経済的リスクに対処する方法について学修する ④ 経済問題を自分の立場で考察する	① 経済的な選択がライフスタイルや生活の質に与える影響を理解し、説明することができる ② モデルを応用し、自身の将来の生活設計を立てることができる ③ 保険、リスク分散など、経済的リスクに対処する方法を修得し、自身の生活に応用することができる ④ 問題点を討議することができる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどの経済記事やニュースに触れる。
	働きかけ力	
	実行力	生活経済論に関連する経済学の基礎知識を身に付けるため、テキスト以外の書物(入門レベル)などに取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	ニュースなどで出てきたフレーズと授業内容を結びつけることができる。
	計画力	
	創造力	
チームで働く力	発信力	ディスカッションの場では、自分の意見を言うことができる。
	傾聴力	教員の講義、他の学生の発言に耳を傾けることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻をせず、授業に集中することができる。
	ストレスコントロール力	

## テキスト及び参考文献

テキスト：重川順子『新訂生活経済学』放送大学教育振興会 3,200円＋税  
 参考文献：「経済学」, 「生活経済学」, 「家庭経済学」の入門レベル

## 他科目との関連、資格との関連

この授業は『共通科目』に属し、その後の学修の基礎となる科目です。また、経済学の視点から生活を捉えることを目的としており、「ライフスタイル学基礎講座&演習」「生活学概論」「社会学」「家族論」など、『衣・食・住』に関する幅広い科目と関連しています。資格としては「教職：中一種(家庭)、高一種(家庭)」と関連します。

学修上の助言	受講生とのルール
経済学は、人間の営みすべてが分析対象です。経済学を身近に感じるかどうかは、自分次第です。「自分ならどうするか?」とイメージすることが大切です。特に、この授業では、授業中に簡単なアンケート(授業内課題)に回答してもらいながら進めていく予定です。授業を通じて、自分が置かれている生活環境や自分が望む将来について考えてみてください。	・講義内容につながりがあるため、実習、病気などで講義を欠席する場合は、他の受講生に連絡し、配布物を貰ってください。また、授業時間内にGoogle Classroomを使用するので、スマートフォン、タブレットなどを持参してください。 ・この授業では、授業中に課題に取り組んでもらい、授業中に提出してもらいます(授業内課題と呼んでいます)。授業出席者は、「適切な時間にすべての課題を提出する」の原則に則り、不審な点がある場合は、授業の出欠席の検討対象とします(ex.出席確認シートを提出しているが、授業内課題をまったく提出していない、または、授業時間外に提出しているなど)。ただし、課題に対する解答の正誤は問いません。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	60	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義で学習した内容を理解しているのかを確認します。また応用問題に対しては適切な解法を使っているかを評価します（部分点あり）。</li> <li>*到達課題の②，③を問う問題を出題します。具体的には，知識の獲得（各単元のキーワードの意味を問う問題）40%～50% 知識の活用（均衡価格，弾力性などに関する計算問題）20%～30% 知識の解決（ゲーム論，期待効用など意思決定モデルを使った応用問題）20%～30%</li> </ul>	
			②	✓		
			③	✓		
			④			
	平常評価	小テスト	0	①		
				②		
				③		
				④		
平常評価	レポート	30	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッション後（授業内）に，200字程度&lt;10点&gt; *レポート提出：5点×2回</li> <li>授業外課題&lt;20点&gt; （各講義後（12回程度）Google Formsによる課題を出します。） *課題のデキは重要視しませんが，提出回数を評価します。（3回目提出以降，1回提出ごとに2点加点します）</li> </ul>	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
			②			
			③			
			④			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①		<ul style="list-style-type: none"> <li>（主体性）経済に興味を持つ。☞出席確認時にアンケート形式で確認（課題発見力）</li> <li>（実行力）新聞、テレビ、インターネットなどの情報を自分なりの視点で見ることができる。☞出席確認時にアンケート形式で確認</li> <li>（発信力）学期末試験（筆記試験）に向けて，毎日，コツコツと取り組むことができる</li> <li>（傾聴力）ディスカッションに積極的に参加していない。☞減点</li> <li>（規律性）話を聞く姿勢ができていない。☞減点</li> <li>講義に支障をきたす行動などは減点する。☞減点</li> <li>・その他，授業ごとに時間外の課題（授業外課題）を出すので，その提出状況も加味します。（授業内課題の提出状況は含めません。）</li> </ul>	
			②			
			③			
			④			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>筆記試験において，授業で扱った専門用語を説明することができる。また，それに関連する経済指標やグラフから，その背景を正しく読み取ることができ，論ずることができる。</p> <p>グループディスカッションにおいては，事前にテーマに関する情報を収集し，ディスカッション中には積極的に発言し，さらに，他の学生の意見もふまえ，多角的な視野に立ったレポートを作成することができる。</p>	<p>筆記試験において，授業で扱った専門用語を説明することができ，それに関連する経済指標やグラフからその背景を正しく読み取ることができる。</p> <p>グループディスカッションにおいては，積極的に発言し，読み手に分かりやすい文章で，自分の考えをレポートにまとめることができる</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	ガイダンス 授業の進め方と評価方法 第1章 日本経済のクロニクル *戦後、日本の出来事とその当時の経済状況について概観し、日本が直面する課題を考える	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	「オイルショック」、 「バブル崩壊」、 「リーマンショック」の概要を述べる事ができ、起きた年代が分かる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる (毎回、出席確認時に、アンケート形式で確認します) ②1950年代の「三種の神器」と1960年代の「新・三種の神器」について調べてくる (復習) レジュメを読み返し、「オイルショック」、「バブル崩壊」、「リーマンショック」の前後で、どのような経済政策が取られたかを日本と海外の繋がりを意識しながら復習しておく	180	主体性 課題発見力 規律性
2	第2章 GDPの変化-経済成長&景気循環を学ぶ- *GNPとGDP、名目GDPと実質GDPの差を理解し、GDPの動きと経済成長および景気循環に関する経済理論を学ぶ。また、それらに関する経済指標についても理解する。	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	短期・長期的なGDPの変化から経済成長と景気循環を説明することができる。またそれらに関する指標である経済成長率、景気動向指数についても説明することができる。	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②GDPについて調べてくる (最低でも、日本語で何というか?は調べる) (復習) レジュメを読み返し、経済成長理論(ソローモデル)を理解しておくこと	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
3	第3章 家計収入と家計支出の変化 *収入と支出の推移とライフスタイルの変化を理解する。さらに、個人の消費の決定に関する理論(ライフ・サイクル仮説)と関連する理論を学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	ライフ・サイクル仮説を説明することができる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第3章を読んでおく (復習) ・テキストp.49「図3-4 収入源別対実収入割合」から読み取れるポイントをまとめておく ・レジュメを読み返し、ライフ・サイクル仮説を図を用いて、説明する事が出来るようにする	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
4	第4章 消費の決定 *「人は、どのように商品の消費量を決めているのか?」について、「無差別曲線」と「予算制約線」により導出する。また、価格および所得と消費量の関係に関する指標である需要の価格弾力性と需要の所得弾力性を学び、また所得と食費の関係に関する指標であるエンゲル係数についても学ぶ。	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	・無差別曲線の4つの特徴を述べることができ、また、無差別曲線と予算制約線を使った消費量の導出方法を説明することができる ・需要の価格弾力性、需要の所得弾力性を求めることができる ・エンゲル係数を説明することができる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第7章5節を読んでおく (復習) レジュメを読み返し、人が消費量をどのように決定しているのかを理論的に説明できるようにしておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
5	第5章 所得の不平等 *日本の産業構造、就業形態および平均給与の変化から労働市場の現状を学ぶ。また、ローレンツ曲線とジニ係数の導出方法を学び、それらを用いて所得の不平等について考察する。	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	・ローレンツ曲線を説明することができる ・ジニ係数の導出方法が分かる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第5章を読んでおく (復習) 授業で行ったローレンツ曲線とジニ係数を用いた所得の不平等に関する問題の解法を理解し、自分ひとりで解けるようにしておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
6	第6章 所得再分配について考える *政府の役割として、財政政策を理論的説明するとともに所得再分配の手段として社会保障および課税制度について学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	政府の経済的役割を説明することができ、政府の所得再分配政策として、具体的にどのようなものがあるかを列挙することができる。	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第4章5節を読んでおく (復習) レジュメを読み返し、日本政府がどのような方法で再分配を行っているのか、また、それによってどのような効果が見込まれるか、を復習しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
7	グループディスカッション①「幸福について考える」 ◎近年、経済学では、生活満足度や仕事満足度といった主観的指標を用いた分析が数多く行われています。ここでは、所得や仕事の有無など客観的指標だけでなく、主観的指標の重要性も考えてみましょう。 (授業の序盤に、幸福に関する指標や関連する資料について紹介します。) *終了後、200字程度のレポートを作成	・グループ討議&発表 ・レポート	他の人の意見を聴くとともに、自分の考えを伝えることができる	(予習) 経済的豊かさと幸福の関係について調べ、自分の考えをまとめておく (復習) 他の学生の意見をふまえ、改めて自分にとっての幸福とは何かを考えてみる(今後の人生の指針となることを期待します)	180	発信力 傾聴力 規律性
8	第7章 結婚と夫婦の関係 *ゲーム理論を用い、夫婦の家事分担について考える。また、政府による調査結果をもとに、日本における結婚生活の現状を理解する	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	ゲーム理論の基本用語・基本的要素・表現方法を理解し、ナッシュ均衡を求めることができる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第10章を読んでおく (復習) ・ナッシュ均衡の求め方を復習し、応用問題に対処出来るようにしておく(数字が変わっても解けるように) ・テキスト第10章の図・表から読み取れるポイントを整理しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	第8章 出産と育児 *子育てのコストと女性の就業から少子化を捉え、少子化に対する政策を学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	・少子化がなぜ問題なのかを理解し、少子化の背景を説明することができる ・日本政府の保育政策について説明することができる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞やネットなどで少子化に関するトピックを探し、その問題点を見つける (復習) 子育てのコスト・女性の就業と少子化の関係を復習しておくこと	180	主体性 実行力 課題発見力
10	第9章 教育の役割 *教育の役割を人的資本仮説とシグナリング仮説の2つの理論から学び、関連する既存研究を理解する	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	教育の役割を人的資本仮説とシグナリング仮説のそれぞれの立場から説明することができる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第11章1~3節を読んでおく (復習) レジュメを復習し、両仮説により、教育が経済に与える影響の違いを復習しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
11	第10章 社会保障と保険市場 *高齢化に伴う社会保障費の増加の現状を理解し、リスクの備えとして保険と資産形成について学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	・保険市場を理論的に説明することができる ・金融商品の特性(安全性、収益性、流動性)を説明できる	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第11章6・7節&第12章を読んでおく (復習) レジュメを読み返し、授業で行った保険市場に関する問題の解法を理解し、その問題を自分ひとりで解けるようにしておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
12	第11章 需要曲線&供給曲線の導出と市場の均衡 *需要曲線と供給曲線について学び、商品の価格が、どのように決定するのかを理解する。また、アメリカの「禁酒法」を例にして、市場の重要性を学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	需要曲線と供給曲線から市場の均衡(均衡価格)を求めることができる。また、均衡価格が実現して経済の条件を説明することができる。	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②需要曲線と供給曲線のグラフを確認しておく (中学で習ったと思います) (復習) レジュメを読み返し、レジュメの「市場の価格メカニズム(穴埋め問題)」を解けるようにしておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
13	第12章 市場の失敗 *市場がうまく機能しない例として公共財および外部効果を取り上げ、その特徴、問題点を学ぶ	・講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック ・確認テスト(授業外課題) *確認テストの解説は、次回の講義で行います。	・公共財の特徴である「非競合性」と「非排他性」について説明することができる。また、第7章で学んだゲーム理論の「囚人のジレンマ」を応用しフリーライダーを説明することができる ・外部不経済について具体的な例をあげて、説明することができる。	(予習) ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキスト第6章3節、第14章を読んでおく (復習) レジュメを読み返し、公共財の需要曲線(限界評価曲線)と私的財の需要曲線の違いを明らかにしておく。また、外部不経済を発生させる企業に対する3つの経済的手段を説明することが出来るようにしておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
14	グループディスカッション② 「ワーク・ライフ・バランスについて考える」 ◎仕事とプライベート時間のバランスが注目され、経済学など多くの分野で研究されています。ここでは、ワーク・ライフ・バランスを実現するための方法について考えてみましょう。 (授業の序盤に、仕事や生活時間に関する政府による調査結果を紹介し、その後、「ワーク・ライフ・バランス度チェックシート」に回答してもらい、それをもとにディスカッションをします) *終了後、200字程度のレポートを作成	・グループ討議&発表 ・レポート	他の人の意見を聴くとともに、自分の考えを伝えることができる	(予習) 自分のライフプラン(例えば、結婚するかしないか、するとすれば相手の条件、子どもの希望、キャリア、趣味など)を考える (復習) 他の学生のストーリーやアイデアから得た新たな視点やアイデアを取り入れることにより、自分のライフプランを再構築する (自分の将来についてより具体的に考える手助けになることを希望します)	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
15	学期末試験に向けて(筆記試験を行うにあたって、問題数や配点、問題の傾向についてお話しします) & 復習プリント *定期試験に向けて、これまでの授業で学修してきた理論モデルを用いた計算問題にチャレンジする	オンデマンド配信	復習プリントの内容を理解し、応用問題にチャレンジできる (定期試験で、応用問題を出題する予定)	(予習) これまで配布したレジュメを揃えておき、目を通しておく (復習) 学期末試験の準備 ・復習プリントの内容を十分に理解する ・各章のPDFの授業内課題および授業外課題の解説を理解しておく	180	発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力